

備えて安心 40  
 ～南海地震などから  
 災害への備え

黒潮町総合防災訓練

9月6日、町内全域で南海地震・津波を想定した総合防災訓練を実施しました。

地域ごとの訓練では、沿岸部は津波、山間部は土砂崩れなどを想定した避難訓練や安否確認の情報伝達を行い、その後、各地域の自主防災組織などで地域の実情にあった災害を想定し、消防署員や消防団員指導のもと、初期消火訓練や応急救護訓練などを行い地域の防災力の向上に努めました。



また、役場では町長をはじめとする幹部職員が登庁し、災害対策本部を設置、対策本部佐賀支部や消防団と連携し、各地域から入ってくる情報を整理しながら町内の被害状況を把握する災害時の初動対応訓練を行いました。



災害時には日頃やっつけていることしかできません。このことは、災害の規模が大きいほど明らかです。そうした意味でも防災訓練はまず参加することが重要です。みんなが訓練に参加し、取り組みを続けることで、訓練の内容も充実し、地域の防災力が高まります。地域と消防団と行政、そして、各世代のつながりを

大切に、防災訓練を続けていきたいと思います。



災害ボランティアセンター実践講座が黒潮町で開催

9月18日、ふるさと総合センターで「災害ボランティアセンター立ち上げのための実践講座」が黒潮町社会福祉協議会および高知県ボランティア・NPOセンターの主催のもと開催され、町内外より72名の方々が参加されました。(町内からは43名が参加)

この講座は南海地震などの災害が発生したあと、被災地の人々の暮らしを守り、支えるために、個々の要望にあった柔軟できめ細やかな活動を行う災害ボランティアセンターについて、その立ち上げから運営に必要な

なことを模擬訓練方式で実践的に学びました。



まず、高知県ボランティア・NPOセンター所長の半田雅典氏の「災害ボランティア活動と災害ボランティアセンター」と題した講演がありました。講演では災害発生後に、なぜ「災害ボランティア活動」や「災害ボランティアセンター」が必要か、「災害ボランティアセンター」を誰が、どのように立ち上げ、運営するのか、といったことを過去の被災地での活動経験を基に、分かりやすく説明していただきました。

続いて、大地震発生後に「災害ボランティアセンター」を立ち上げたことを想定して、参加者がスタッフ

役、ボランティア役、被災者役に分かれ、センターの運営を実践的に体験しました。

今世紀前半にも確実に発生すると言われている南海地震においては、町内だけでなく県内全域での被害が予想され、災害ボランティアの力を生かすためには、地元団体が町独自の災害ボランティアセンターを運営できる体制づくりが必要であり、この取り組みが一日も早い日常生活への復旧活動であると言われています。



今後の訓練においても役場、各機関、そして住民の皆さんと連携して情報を共有しながら、災害の被害を最小限に止めるよう地域全体で災害への対応力を高めたいと思います。